

これからの 風の 景

Landscape Will Be:
New Encounters
with the World

観光
Tourism



山本武彦「東海道五十三次之内 浅草寺」
1933年画 静岡県立美術館蔵



環境
Environments



佐田康雄「Mt. Fuji」1953/2008年 静岡県立美術館蔵 SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
コロート・モリス・アン・ドゥ・ラ・マール「山」1972年画 静岡県立美術館蔵

世界と出会いなおす 6のテーマ

2025年
7月5日[土]——
9月23日[火・祝]

鑑賞
Appreciation



記憶
Memory



山手島之図（東京）1932-1934年画 静岡県立美術館蔵

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

主催 静岡県立美術館
助成 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

開館時間
10:00-17:30（展示室への入室は17:00まで）
休館日
月曜日
（ただし、7月21日[月・祝]、8月11日[月・祝]、
9月15日[月・祝]は開館し、翌日休館。）

観覧料
一般——1,000円(600円)
70歳以上——500円(400円)
大学生以下——無料

()内は前売券及び20名以上の団体料金。
収蔵品展、ロダン館も併せてご覧いただけます。
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
特定医療費(北東部)、交通費証、指定難病登録者証の
交付を受けている方と付添者1名は無料。

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
ウェブサイト <http://spsm.shizuoka.shizuoka.jp>
お問い合わせ [企画・観覧課] Tel. 054-263-5765 Fax. 054-263-5767 [学芸課] Tel. 054-263-5857

対話
Dialogue



場所
Place



静岡県立美術館 (Shizuoka Prefectural Museum of Art)
1932年（静岡県立美術館）（本館・新館）

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ



企画概要

「これからの風景」展は、静岡県立美術館が約40年にわたってコレクションしてきた、さまざまな風景画・風景表現を、これまでとは少し違った切り口でご紹介する展覧会です。

西洋で本格的に風景画が描かれるようになったのは、17世紀頃でした。地動説が唱えられた科学革命の時代に、それまで日々の生活の糧を得て、ときには脅威の対象であった自然を、一歩ひいて客観的に眺められるようになったことから、風景画は描かれるようになった、とも言われています。そして、キャンヴァスや紙に表現され、誰かと共有可能なものとなった風景イメージは、私たちの自然観・世界観に影響を与え、その文化や歴史に豊かな彩りを与えてきました。

詩「これからの風景」で、谷川俊太郎は、現代の超高層建築と太古からの自然の驚異とを対比しながら、変化しつづける風景の未来について惑星規模で想像するようにうながしています。近代の理性的人間像を前提とし、主に視覚を通して認識された世界の反映とも言える風景画は、多様な他者—そこには人間以外の存在も含まれます—との共生が課題となっている現代において、いかなる役割を果たしうのでしょうか。

この展覧会では、この問いに向き合いながら、風景画・風景表現を、来場いただいた皆様の経験にも引き寄せやすい6つのテーマにそってご覧いただきます。ご自身の記憶や感覚と向き合いながら、描かれた風景の中に存在する他者のまなざしや感じ方に思いをはせてみてください。鑑賞後にはまわりの風景が少し違って見えるような、そんな新しい世界との出会いを、この展覧会を通して見つけていただけたら幸いです。

本展の みどころ

1. 江戸時代から現代へ！西洋も、日本も！

時代と地域、ジャンルを超えて“風景の美術館”の珠玉の名品約170点*を公開します。

*展示替え作品を含みます。

2. 環境問題やオーバーツーリズムなど、今日的な話題にも引き寄せたテーマによって、風景画・風景表現を新しい切り口で紹介します。

3. 見るだけでなく、さわって、聞いて、話して…触図や音声ガイドなどを通して視覚以外の感覚でも風景画を楽しもう！誰もが楽しめる風景画鑑賞のかたちを提案します。

展覧会の構成

第1章 記憶一心にふりつもる風景

展覧会の冒頭でご紹介する、谷川俊太郎の詩「思い出の風景」には、表現された風景と現実の風景とが重なり合いながら、個々人の記憶が、さらには、一人一人独自の風景への感受性が形づくられることがうたわれています。イメージを通して、個人の中で育まれる風景への感受性とその広がり、そのままその人のアイデンティティの形成と「世界」の拡張につながっています。過去に描かれた風景画が、人々の、光や自然、色彩、建築物などに美を感じる感性を育ててきたことを、当館の代表的な所蔵品とともにたどります。

1.
歌川広重
東海道五拾三次（保永堂版）：
蒲原 夜之雪
1833(天保4)年頃
(展示期間：7月5日～7月27日)



2.
クロード・モネ
ルーアンのセヌ川
1982年



第2章 鑑賞一さわる風景、きく風景

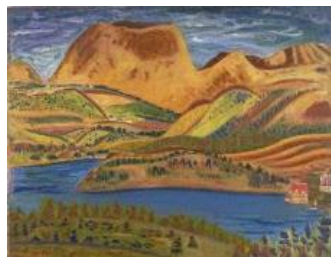
長らく西洋の風景画の模範とされてきたクロード・ロランの作品を対象に、視覚以外の感覚で、風景画を鑑賞する方法を提案します。触図（絵や図の輪郭などを立体的に盛り上げて、触って鑑賞できるようにしたもの）や音声ガイド、テキスタイルのインスタレーションなどを通して、障害の有無にかかわらず風景画のエッセンスを楽しんでいただけるよう工夫を凝らした展示をお楽しみください。

3.
クロード・ロラン
《笛を吹く人物の
いる牧歌的風景》
1630年代後半



第3章 観光一見出された風景

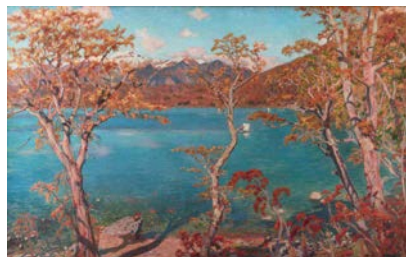
古来、和歌などに詠まれてきた場所にせよ、明治以降の山岳ブームや鉄道網の発達などを通じて発掘された場所にせよ、よく知られた観光地の普及には、風景画やその複製が大きな役割を果たしてきました。型にはまったイメージの普及は、現代のオーバーツーリズムやイメージ消費の問題とも無関係ではありません。一方で、当時の制作背景を知ることや、画家が注目した風景の要素を見直すことから、風景とのより親密で豊かな関係を取り結ぶためのヒントが見えてきます。



4.
児島善三郎
箱根
1937（昭和12）年頃



5.
吉田博
上高地の春
1927（昭和2）年



6.
中澤弘光
風景(秋の湖畔)
1919（大正8）年

第4章 場所一名前のない風景

チェーン店が立ち並び幹線道路沿いの風景は、どこも同じに見える一方、そこで多くの時間を過ごした人にとっては、かけがえのない場所であるかもしれません。そんな誰かの特別な場所も、時とともに開発や過疎化によって姿を変え、価値や意味合いが変化していきます。相対的で流動的な、名もない場所の風景を、画家や写真家はどのように表現してきたのでしょうか。コロー、ルソーなど西洋絵画から現代の写真まで、ジャンルを超えた作品を通して探ります。

7.
野田哲也
Diary : Feb.27th '83, in
Koganei
1983(昭和58)年
(展示期間:8月19日～9月23日)



8.
ジャン＝バティスト
＝カミーユ・コロ
ーメリ街道、ラ＝フェ
ルテ＝ス＝ジュアル
付近
1862年

第5章 環境—地球を想像する風景

私たちは、現実にはせよ、イメージにせよ、風景を鑑賞するとき、ともすると、それが悠久不動のものだと捉えがちです。しかし、人類の活動による地球環境への影響が顕著になって久しい今、風景を不変のものとして鑑賞することは難しくなっています。風景の地質学的な成り立ちを感じさせる作品や、人の手が変貌させた大地のすがたを記録する絵画を通して、風景との向き合い方を捉え直します。

9.
ジョン・ロバート・カズンズ
ポルティチからヴェスヴィオ山を望む
1782年
(展示期間:8月19日～9月23日)



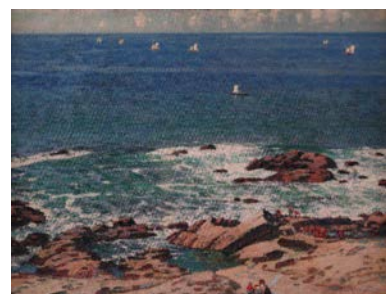
第6章 対話—「 」する風景

同じ風景を見ても、その人の文化的な背景や経験、そのときどきの状態によって、受ける印象や抱く感情は千差万別です。その当たり前の事実の確認と共有は、風景画をより深く鑑賞するきっかけとなるでしょう。地平線・水平線の描かれた風景画／風景表現ばかりを集める本章では、作品が、来場者にどのような想像を喚起したか、どのような感情を引き起こしたかを、来場者自身が立ち止まって考え、他者と共有する場を設定します。

10.
野口謙蔵
虹の風景
1941(昭和16)年



11.
山本森之助
海岸
1912-1914 (明治
45-大正3)年



関連イベント

館長講座「なぜ絵は四角いのだろう」

8月10日(日) 14:00～15:30

会場：講堂 ※手話通訳付き 申込不要/参加無料

ゲスト・トーク・シリーズ

異なる分野の専門家をお迎えして、本展担当学芸員とともに、風景や出品作品、展示について様々な角度から語り合います。

各日程とも14:00～15:00頃 申込不要/要観覧券

会場：講座室または展示室※詳細はウェブサイトにてお知らせします。

7月26日(土) 桂川大氏(建築家/STUDIO大・おどり場 主宰)

8月23日(土) 青田麻未氏(環境美学/上智大学助教)

8月31日(日) 小林淳氏(火山学/静岡県富士山世界遺産センター教授)

9月 7日(日) 内海佐和子氏(都市計画・建築計画/静岡県立大学教授)

対話でつながる風景鑑賞会

7月20日(日) 14:00～15:30頃

会場：企画展示室 要申込/要観覧券

見えない人・見えにくい人・見える人がそれぞれの見方、感じ方を伝え合いながら風景画を鑑賞します。

親と子のための鑑賞会

8月9日(土) 10:30～(対象：未就学児) 13:30～(対象：小学生)

会場：企画展示室 要申込/要観覧券(保護者のみ)

担当学芸員の問いかけやファシリテーションとともに、親子で対話を楽しみながら行う鑑賞会。

地球家族会議@静岡県美

8月17日(日) 14:00～

会場：講座室 申込不要/参加無料

講師：早川宗志氏(ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授)

“ふじミュー”の対話型展示を出張開催します。

風景の成り立ちと環境にまつわる答えのない問いについて、参加者が話し合います。

担当学芸員によるフロアレクチャー(展示解説)

7月12日(土)、9月21日(日) いずれも14:00～

会場：企画展示室 申込不要/要観覧券

展示室内で作品を前に行う展示解説会です。

こども創作週間

8月7日(木)～11日(月・祝) 10:00～16:00(12:00～13:00はお休み)

対象：小学生から高校生まで 申込不要/参加無料

さまざまな材料、道具、アイデアが集まった当館の実技室をこどもたちに開放します。好きな創作活動をするもよし、コンクールの絵を描くもよし、探求学習のタネも見つかるかも！？お気軽にお越しください。

実技講座

8月2日(土)、3日(日) 要申込/要観覧券(大学生以下無料)

ユニバーサルデザインの思考を活かして、だれもが楽しめる、さわる絵本をつくるワークショップを開催します。

ギャラリートツアー

会期中、ボランティアによる対話型鑑賞会を実施します。

開催概要

展覧会名	これからの風景 ―世界と出会いなおす6のテーマ
会期	令和7（2025）年7月5日(土)～9月23日(火・祝)
会場	静岡県立美術館（静岡市駿河区谷田53-2）
休館日	毎週月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館。）
開館時間	10:00～17:30（展示室への入室は17時まで）
観覧料	一般1,000円（800円）、70歳以上500円（400円）、大学生以下無料 ※（ ）内は前売および20名以上の団体料金。 ※収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費（指定難病）受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者1名は無料。
主催	静岡県立美術館
アクセス	JR東海道線「草薙」駅県大・美術館口から、徒歩約25分 またはバス(草薙美術館線県立美術館行き)約6分、「県立美術館」バス停下車。 静岡鉄道「県立美術館前」駅南口から、徒歩15分またはバス（草薙美術館線県立美術館行き）約3分、「県立美術館」バス停下車。 JR「静岡」駅からバス（北口11番のりば／県立美術館線県立美術館行き）約30分、「県立美術館」バス停下車。 東名高速道路 静岡IC・清水ICから約25分、日本平久能山スマートICから約15分。新東名高速道路 新静岡ICから約25分。

同時開催展情報

本館竣工40周年記念 たてもの探訪 2025年7月1日(火)～8月17日(日)

日本の絵画に描かれた建築の造形美や意味に迫るとともに、建築を描く際に用いられた工夫にも注目します。

絵から読む物語 2025年8月19日(火)～9月28日(日)

日本の近世から近代の物語絵を展覧し、心情や物語の展開を想像しながら鑑賞する絵画の魅力に迫ります。

次回の企画展

金曜ロードショーとジブリ展 2025年10月11日(土)～2026年1月4日(日)

「金曜ロードショー」の歩みと同時代の記録をたどりながら、スタジオジブリ作品の魅力に迫ります。

お問合せ

静岡県立美術館 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2
TEL：054-263-5857 FAX：054-263-5742
E-mail：soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp
担当：貴家(さすが)、古家、石上（学芸課） 川口（企画総務課）

広報用画像
申込書

E-mail： soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp / FAX: 054-263-5742
担当： 貴家(さすが)、古家、石上（学芸課） 川口（企画総務課）

本プレスリリースに掲載されている作品画像を広報用にお貸出します。
ご希望の画像に○をつけて、必要事項を記入し、上記メールアドレスかFax番号宛にお申し込みください。

○を 記入	番号	作者名・作品名・所蔵先
	1	歌川広重《東海道五拾三次（保永堂版）：蒲原 夜之雪》1833(天保4)年頃 静岡県立美術館蔵 (展示期間：7月5日～7月28日)
	2	クロード・モネ《ルーアンのセーヌ川》1872年 静岡県立美術館蔵
	3	クロード・ロラン《笛を吹く人物のいる牧歌的風景》1630年代後半 静岡県立美術館蔵
	4	児島善三郎《箱根》1937(昭和12)年 静岡県立美術館蔵
	5	吉田博《上高地の春》1927(昭和2)年 静岡県立美術館蔵
	6	中澤弘光《風景（秋の湖畔）》1919(大正8)年 静岡県立美術館蔵
	7	野田哲也《Diary：Feb. 27th ‘83, in Koganei》1983(昭和58)年 静岡県立美術館蔵(展示期間:8月19日～9月23日)
	8	ジャン＝バティスト＝カミュー・コロー《メリ街道、ラ＝フェルテ＝ス＝ジュアール付近》1862年 静岡県立美術館蔵
	9	ジョン・ロバート・カズンズ《ポルティチからヴェスヴィオ山を望む》1782年 静岡県立美術館蔵 (展示期間：8月19日～9月23日)
	10	野口謙蔵《虹の風景》1941(昭和16)年 静岡県立美術館蔵
	11	山本森之助《海岸》1912 - 1914(明治45 - 大正3)年頃 静岡県立美術館蔵
	12	本展チラシ表面イメージ

■ 御社基本情報

御社名	媒体名	
発行・放送予定日	発行部数	ご担当者名
T E L	F A X	
E-mail	URL (ウェブの場合)	
連絡欄		

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5組10名様）を読者プレゼント用に提供いたします。
プレゼント用招待券を【希望する・しない】
送付先住所【〒

】

- 【画像ご使用に際してのお願い】
- * 画像は本展覧会のご紹介のみを目的としてご利用いただき、使用後のデータは破棄してください。
 - * 画像キャプションを必ず明記し、画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。
 - * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
 - * 掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。